

# 妊娠中ならびに分娩後のマイナー・トラブルの検討

共同研究者 木村 好秀(三楽病院産婦人科)

## I. はじめに

本来、生理的な現象や営みには苦痛を訴えず、むしろ快感や爽快感すら伴うのが普通であるが、女性は妊娠中や分娩時さらに産褥期にも種々の愁訴を訴えることがある。これらのうち直接的に母児に障害を及ぼすことの少ないものをマイナー・トラブルとしているが、どの程度のものまでをマイナーと考えるかについては必ずしも明確ではない様である。また従来それらは生殖に伴う避けがたい宿命的な愁訴として等閑視されてきた傾向にあり、学問的な解明も乏しく母性保健上でも問題になることが少なかった。

ところで昨今は女性の社会的進出が目覚しく、男女平等雇用法の成立も相俟って就業女性の数は年毎に増加しているのが現状で、妊娠中もひき続き就業を継続するのが一般的となっている。しかし日常臨床においてマイナー・トラブルの持続や増強により妊婦が就業を障害されたり中断を余儀なくされることを経験しており、本問題は今後の母性保健の上で無視できないものである。そこで今回われわれは勤労婦人主として公立学校の教諭を対象として、妊娠中ならびに分娩後のマイナー・トラブルについてアンケート調査を行ったので報告する。

## II. 調査対象ならびに調査方法

1. 調査対象 昭和60年6月より昭和61年12月までの1年7カ月間に、東京都教職員組合互助会三楽病院産婦人科において妊婦診察をうけた各妊娠週数の妊婦343例と、ひき続き同院にて分娩した褥婦261例の合計604例である。それらはいずれも主として東京都内にある幼稚園(保育園)をはじめ、小・中・高校の教諭である。

2. 調査方法 妊婦に対しては妊婦診察時に、また褥婦に対しては原則として退院診察時と分娩後1カ月診察時に、実験者の作成したマイナー・トラブル調査用紙を配布し、本人に記入させて直ちに回収した。

調査表の内容は、血管運動神経系4問・関節運動系11問・末梢神経系3問・泌尿生殖器系8問・呼吸循環器系3問・精神神経系8問・消化器系7問・浮腫4問・皮膚1問・感覚器系2問・全身2問・意欲

1問の合計57問でそれらの愁訴の有無を記入させた。そして設問の各愁訴にはそれぞれ経験的に妊娠時に出現頻度の高いと思われるものに3点、中等度のものに2点、出現頻度の低いと思われるものに1点を与え、全体の57項目では総スコア(マイナー・トラブルスコア)が100点になる様にした。

### Ⅲ. 成績

妊娠月数別のマイナー・トラブルスコアは、妊娠2カ月63例平均31.3点、以下同様に3カ月46例36.5点、4カ月24例32.8点、5カ月35例32.0点、6カ月27例35.4点、7カ月25例43.3点、8カ月37例37.7点、9カ月28例38.8点、10カ月57例35.8点となり、妊娠月数がすすむにつれてスコアの増加傾向がみられた。産褥261例平均26.0点となって、これは妊娠のどの月数よりも低いスコア一値であった。

次にそれぞれの愁訴を血管運動神経系・関節運動系などの12の愁訴群に分けて、妊娠月数がすすむにつれ愁訴群のスコアがどの様に推移するかを検討してみた。まず関節運動系(総スコア18点)は、妊娠前半期のスコアは平均3.5～5.1点であったが妊娠後半期のそれは平均6.1～8.0点と増加し、妊娠前半期の約2倍のスコアとなり明らかに腰背痛や関節筋肉痛を訴え、それらの症状が増強していることを示唆している。浮腫(総スコア7点)もほぼ同様な傾向がみられ、妊娠前半期では平均0.4～0.7点の範囲であったが、妊娠7カ月では平均1.2点、妊娠10カ月では平均1.8点となって約3倍のスコアに増加して浮腫が脚や手にみられることが伺える。泌尿生殖器系(総スコア15点)もやはり妊娠5カ月以後に増加(平均6.3点)し、7カ月には平均8.6点と最高値を示した。これは妊婦が頻尿や帯下感の症状を訴えていることを示している。皮膚障害(総スコア2点)では妊娠前半期が平均0.2～0.6点であったが、後半期には妊娠8カ月に最高の平均0.9点のスコアとなり、産褥ではさらに平均1.0点となってシミやソバカスに悩んでいることがわかる。倦怠感や易疲労性の全身感覚(総スコア5点)は全妊娠経過を通して高くみられ、平均2.4～3.8点に推移し、産褥で平均2.0点となり低下した。

呼吸循環器系(総スコア6点)はやはり妊娠後半期にスコアの増加(妊娠8カ月平均2.0点)がみられ、その時期には動悸や息切れを訴えていることが明らかで、産褥になるとスコアは平均0.2点と著しく改善した。精神神経系(総スコア15点)は全妊娠経過を通じていずれも高いスコア(平均6.3～8.3点)を示した。妊娠経過中は頭痛、不眠、イライラなどを高頻度に訴えていることが示唆された。しかし産褥になるとスコアは半減して平均3.8点となった。次に消化器系(総スコア20点)も全妊娠経過と産褥を通してスコアが高く、なかでも妊娠3カ月は最高値で平均9.7点を示した。この時期は従来から知られている様につわり症状で悩まされ、その時期以外には便秘や痔などを訴えていることがわかる。また意欲として家事をするのが苦痛ですかという設問(総スコア2点)に対して、妊娠4カ月末までは苦痛であるとする頻度が高く平均0.8～1.0点の高いスコアであった。妊娠8カ

月以後はこれが軽快する傾向（平均 0.4～0.7 点）がみられた。血管運動神経系（総スコア－5 点）では全妊娠経過と産褥においてほぼ 1.4 点であるが、妊娠 7 カ月のみが平均 2.6 点と高値を示した。

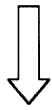
#### Ⅳ. まとめ

以上、東京都教職員組合互助会三楽病院を受診した妊娠 343 例と、同院で出産した褥婦 261 例の合計 604 例に施行したマイナー・トラブルについてのアンケート調査の成績について述べた。

従来から妊娠時ならびに分娩後のマイナー・トラブルは、女性の生殖に伴なう愁訴として避けられないものと等閑視されてきたが、今回のわれわれのアンケート調査の成績からも明らかな様に、肉体的や精神的にも種々の愁訴を高頻度で訴えていることが判明した。即ち関節運動器系・末梢神経系・浮腫・泌尿生殖器系・呼吸循環器系などは妊娠月数のすすむにつれてマイナー・トラブルスコアは増加して愁訴の増強がみられた。また消化器系では妊娠初期にスコアが非常に高く愁訴の強いことを示しており、その後の妊娠経過でも比較的高いスコアが持続していることが明らかになった。さらに血管運動神経系や精神神経系をはじめ全身などは全妊娠経過を通じてスコアが比較的高値に持続していた。

いずれにせよこれらの種々の愁訴を女性が妊娠中や産褥期に耐えねばならぬことは、今日の様に産業構造が変革して高度化し、ストレスの増大が予想される社会においては新たな愁訴の発生も危惧されるので、マイナー・トラブルが医学的には *subclinical* な問題とはいえこれを軽視することは許されないと思われる。しかし妊婦のマイナー・トラブルについての研究はまだ緒についたばかりであり、それらの発生機序はなお十分に解明されていない。

近年、*maternity care* の主たる強調点として正常性の維持があり、愁訴の改善の一つの方法として妊婦水泳やエアロビクスなどが採り入れられ、有効であるとの成績も報告されている。しかしそれらを享受できるのは主婦をはじめごく限られた人達であり、勤労婦人には時間的制約や設備などの問題もあって容易ではない。勤労婦人がその妊娠や産褥経過をよりよく生きるためには、今後も就業環境をはじめ社会環境の改善に不断の努力をする必要がある。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



.はじめに

本来,生理的な現象や営みには苦痛を訴えず,むしろ快感や爽快感すら伴うのが普通であるが,女性は妊娠中や分娩時さらに産褥期にも種々の愁訴を訴えることがある。これらのうち直接的に母児に障害を及ぼすことの少ないものをマイナー・トラブルとしているが,どの程度のものでマイナーと考えるかについては必ずしも明確ではない様である。また従来それらは生殖に伴う避けがたい宿命的な愁訴として等閑視されてきた傾向にあり,学問的な解明も乏しく母性保健上でも問題になることが少なかった。

ところで昨今は女性の社会的進出が目覚しく,男女平等雇用法の成立も相俟って就業女性の数は年毎に増加しているのが現状で,妊娠中もひき続き就業を継続するのが一般的となっている。しかし日常臨床においてマイナー・トラブルの持続や増強により妊婦が就業を障害されたり中断を余儀なくされることを経験しており,本問題は今後の母性保健の上で無視できないものである。そこで今回われわれは勤労婦人主として公立学校の教諭を対象として,妊娠中ならびに分娩後のマイナー・トラブルについてアンケート調査を行ったので報告する。